朝日寺だより

発行者　若松隆英
総代　若松隆英
印刷者　奥山印刷会

年頭所感

住職　若松隆英

檀信徒の皆様明けましてお目出とうございます。昭和六十三年のはじまりにあたりまして一言ご挨拶申し上げます。私儀昨年十一月三日の晋山式を以て父正隆のあとを継ぎ、朝日寺第十四世となりました。この紙面をかりまして、ご報告申し上げますと共に、父正隆同様ご支援の程よろしくお願い致します。

さて、昨年は五ヶ年計画最後の年という事で皆様方に大変なご無理をお願い致しましたが、多大なご協力のお陰で土塀が修復され、見違える様な寺の景観となりました。寄附石を参道脇に、寄附板を客殿に掲げております。

また、寺にお参りいただいてこそこの修復も生きてくる事と思いまして、私の方で、本堂東に修行大師像を建立いたしました。四国八十八ヶ所霊場お砂踏みも出来るようになっております。どうぞお参りいただければと思います。

十一月三日には土砂加持法要、晋山式と大きな行事を行ないました。稚児行列があったり、うどんのお接待、もち投げをしたりでにぎやかな一日でした。心配された雨も行事の終了を待つようにして降り出しホッといたしました。

年中行事となっています如法経法会（よみあげ）が邑久町の重要無形文化財に指定されました。全国的にもめずらしい行事という事でテレビでも全国放送されました。建物と共に先祖が残してくれた貴重な遺産です。大切に守っていきたいと思います。

昨今霊感商法という事で高額な壺などを買えば病気が治ったり、仕事がうまくいったりするとさかんに勧めて買わす商売があるようです。豊かだけど不安で、何でもすぐに結果を求める現代人の風潮につけこんだ商法です。しかし何事においても一日一日の努力、精進の積み重ねこそが大切なのではないでしょうか。

真言宗は弘法大師によって今から千二百年近く前に開かれた教えです。その教えの基本は密厳国土（みつごんこくど）、済世利民（さいせいりみん）といってこの世を救い、人々を利益することにあります。一人一人がローソクのように自らを燃やし乍ら周りを照らしていけば世の中も明るくなるのではないでしょうか。

皆様方のご健勝をお祈り致します。

新年をむかえて

総代長　島岡篤

明けましておめでとうございます。謹しんで新年のご挨拶を申し上げます。旧年中は大変お世話になりました。高野山詣りは三月十六日十七日と一泊二日の旅行でございましたが七十三名と言う大勢のご参加を得、誠に有難いご本尊詣りでした。五月十四日には瀬戸内観音巡りで一日旅行でしたが、一行九十三名で頼久寺の庭園、嫁いらず観音等ありがたい、楽しい一日でした。四国八十八ヶ所霊場巡りは十月十三日から十五日まで二泊三日で行いましたが、四十三名のご参加をいただき香川県の三ケ寺、徳島県二十三ケ寺と二十六ケ寺、第一回目を無事終了いたしました。ありがとうございました。この四国巡りは毎年行います。まだ十名位席がありますので、ご希望の方は早めにお申込下さい。

特に昨年は朝日寺修復五ヶ年計画の最後の年でもございまして、特別寄付と言う様な事で皆様にご無理をお願い致しましたが、これは土塀修復（先祖墓の塀の修復を含む）に対する資金と、昭和六十三年度以降に行う事業の基金として集めさせて載きました。多額のご芳志をいただきまして誠にありがとうございました。皆さん見て下さい。皆さんの朝日寺を。外観は本当にきれいに立派になりました。ご同慶の至りでございます。ご承知のように十一月三日に薬医門（山門）鐘楼堂、土塀修復の落慶法会。七年目に行われる土砂加持法会。それに若住職の晋山式と三行事を一日で行いましたが、稚児一二二名、結衆住職十八名、ご詠歌連中二十五名のご参加をいただき、当日の参拝者は六百名を数え大盛況でございました。総代は勿論、密教婦人会の役員、庄田老人会の役員の方々には準備お接待等、大変お世話になりました。紙上をかりまして厚く御礼申し上げます。寄付金、事業の報告等につきましては、又別便にてご報告申し上げますが、何分にも古い寺でございます。今年度からは客殿、本堂、納屋の屋根の修復等、大きな事業が山積しておりますが、総代会としても何とかして朝日寺の推持をと計画をたて、全力を盡す所存でございます。檀家の皆様には今後共ご負担の多い時ではございますが、ご理解いただきましてご協力下さいますよう宜しくお願いを致します。

色々お礼やらお願いを申し上げましたが、最後に皆様方のご健康とご多幸を祈念致しまして新年のご挨拶といたします。

新造なった、塀・駐車場

ご挨拶

名誉住職　若松正隆

新年明けましておめでとうございます。

迎春

蜜教婦人会会長　水野幸子

明けましておめでとうございます。謹んで新春の御挨拶を申し上げます。密教婦人会の行事に際しましては、一方ならぬ御協力を頂きまして有難うございます。

ご家族おそろいで良いお正月をお迎えの事とお慶び申し上げます。

私が第十二世隆如上人より朝日寺第十三世として、法燈を受け継いだのは戦後世の中のまだごた〳〵の時でした。振り返ってみれば長いような短いような気のする三十年間でございました。浅学非才の身であり乍ら無事今日を迎えられました事はひとえに歴代総代の方達はじめ、檀信徒皆様方のご支援、ご協力があったればこそと深く感謝致しております。本当に有難うございました。私は十四才で高野山中学に学びましたが、当時の事を時々思い出します。朝夕おかゆ、昼は麦御飯に菜っぱか豆の炊いたのが一皿あるだけで、時には夕方になると西の空をながめては、今、家では何を食べているのかな等と友達と語り合った事もあります。住職になってからはみ佛さまにすがり、拝む事に専念して来ました。

忘れもしません、五十四年九月二十五日、岡山に行く途中、交通事故にあい皆様に大変ご迷惑をお掛け致しましたが、一ヶ月以上も意識不明で助かっても植物人間になるだろうと思われていた私が、今ここにこうしていられるのはみ佛さま、ご先祖さまの御加護があったればこそと感謝しております。そして、皆さまが一生懸命般若心経をお唱え下さいました事を後で聞きましたが、その願いを聞いて下さったのだと思います。有難うございました。

昨年、十一月三日には皆様のお陰で、山門、塀、鐘つき堂、鎮守堂の立派になった中で、無事晋山式を迎える事が出来、第十四世隆英に法燈をゆずる事が出来ました事は、慶びにたえません。

名誉住職と名は変りましたけれ共、今迄通りどうぞよろしくお願い申し上げます。

そして新住職に対しまして暖かいご支援、ご協力を賜わります様、よろしくお願い申し上げます。

益々朝日寺が発展します様、そして皆様方の御健勝をお祈り致します。　合掌

恒例の五月八日の花まつりには、沢山の方のお詣りがございました。玉津保育所の園児もお詣り下さり、お花を一輪づゝ御供えして可愛い小さな手を合せて拝む姿は、ほんとうに微笑ましゅうございました。お天気にも恵まれ賑かにおまつりが行われました事を、嬉しく感謝致して居ります。

十一月三日の土砂加持法会には、密教婦人会はお稚児の募集をさせて頂きました。百二十名の御参加がございました。お稚児行列は、厳かな中に、ちょっぴりと緊張した親ごさん方、子供さんのお顔、和やかな暖かいものがながれて皆様倖せそのもの、様お見受け致しました。薬医門を入りますと、ぼけなし薬師如来のやさしい眼差しを感じ、お詣りする度に心の安らぎがございます。どうぞ皆様も折にふれてお詣り下さいませ。

最後になりましたが、皆様の御多幸と御健康をお祈り致しまして、御挨拶にかえさせて頂きます。　合掌

高野山詣り

三月十六日・十七日と四国八十八ヶ所霊場満願のお礼参りの人を中心に、高野山奥之院にお参りしました。

途中、生駒の聖天さんにお参りしましたが、商売繁昌のお寺という事で、大阪の商売人の人が大勢参られるのでしょう。多くの人々が境内をうめていました。また、一金何百万、何千万という寄附石が林立していたのにはびっくりしました。高野山奥之院へは新しく出来た参道を通ってお参りしましたが、旧参道の両側には各大名などの苔むした石塔が立っているのに対して、こちらは現代の大名さんとでもいおうか、ま新しい大きなお墓が並んでいました。案内人の人が立ち止まって説明していましたが、二億七千万円というお墓がありました。帰りに女人高野と呼ばれる室生寺に寄りました。昔、高野山は女人禁制で、女性は登る事が出来なかったので、ここへ多くの女性がお参りしました。自然石の石段、檜皮ぶきの美しい五重塔、古い建物、雨の中にしっとりと落着いた、たたずまいを感じました。

高野山　奥之院にて

高野山　奥之院にて

第三回 瀬戸内三十三観音巡拝記

大土井　田中修一

瀬戸内三十三観音めぐりも本年――昭和六十二年――で第三回目で、五月十四日一行九十二名で備中路七ケ寺を巡拝しました。

順路は高梁市の頼久寺、成羽町の竜泉寺、井原市の法泉寺、千手院、嫁楽観音、倉敷市の遍照院、不洗観音。

頼久寺は臨済宗の寺で、城郭を思わせる石垣、山門、本堂、法堂等よく整って、威風を感じさせた、すまいでした。

行基の作と伝えられる聖観音が本尊で、創建は不詳であるが、暦応年間、足利尊氏再興の備中安国寺が、現在の安国頼久寺となったといわれる。備中松山の城主であった上野氏、三村氏等とのゆかり深く戦国武将興亡の物語りも多い。

慶長元和の頃、備中代官であった小堀遠州の作と伝えられる庭園は、本堂裏手の書院の前にあり、国指定の名勝として有名である。

井原市の法泉寺は曹洞宗の寺で、本尊は聖観音、小田原北條氏の祖、伊勢行長の建立といわれる、仁王門、山門、廻廊門をくゞり、一段高い敷地の、本堂、遺牌堂、開山堂、客殿、庫裏、禅堂、鐘つき堂と古格を残すたゝずまいであったが頼久寺にくらべ、やゝ荒れた感じであった。

成羽町の竜泉寺は愛宕山中腹にあり、天平年間行基の開基、本尊聖観音は、弘法大師がつくって安置されたものといわれ、現在地に移るまで、幾多興亡変遷を経ている寺である。

真言宗に属し、老杉がそびえ立つ参道、鐘楼門、唐破風の玄関のついた本堂など、平明で、くつろぎとしたたしみを感じさせるたゝずまいであった。

井原市と矢掛町美星町の境界近くの山地の千手院は、頂見山の山号のとうり、境内からの見はらしがすばらしいお寺で、こゝも真言宗に属し、本尊は千手観音で、天平年間行基の開基と伝えられ、興亡変遷は、竜泉寺に劣らぬもの、ようである。

このあたりは浪形層と呼ばれる珍らしい地層の地で、県の自然保護地域に指定され、貝化石、サメの歯化石等も出るという。寺の庭

瀬戸内観音霊場　第十六番　法泉寺にて

裏面につづく